

## CHOP[day1]+Obinutuzumab療法【同日】

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

CHOP[day1]+  
Obinutuzumab療法【同日】

3 週毎 8 コース予定

疾患名 悪性リンパ腫

主治医

指導医

HBs抗原( )、HBs抗体( )、HBc抗体( )

スケジュール

【1コース目】

		day	1	2	3	4	5	8	15
ガザイバ(オビヌツズマブ)	1000 mg/body		↓					↓	↓
プレドニン	100 mg/body		↓	↓	↓	↓	↓		
ドキシソルピシン	50 mg/m <sup>2</sup>		↓						
オンコビン(ピンクリスチン)	1.4 mg/m <sup>2</sup> 【最大2 mg】		↓						
エンドキサン(シクロホスファミド)	750 mg/m <sup>2</sup>		↓						

【2～6コース目】

		day	1	2	3	4	5
ガザイバ(オビヌツズマブ)	1000 mg/body		↓				
プレドニン	100 mg/body		↓	↓	↓	↓	↓
ドキシソルピシン	50 mg/m <sup>2</sup>		↓				
オンコビン(ピンクリスチン)	1.4 mg/m <sup>2</sup> 【最大2 mg】		↓				
エンドキサン(シクロホスファミド)	750 mg/m <sup>2</sup>		↓				

【7～8コース目】

		day	1
ガザイバ(オビヌツズマブ)	1000 mg/body		↓

【注意】\*オビヌツズマブ施行時は体温・脈拍・血圧測定・SpO2測定はup直前におこなうこと。

\*オビヌツズマブ投与は0.2又は0.22 μmインラインフィルターを通して投与すること。

\*ニューモシスチス肺炎予防としてST合剤の予防投与を検討すること。

\*ドキシソルピシンの総投与量は 500 mg/m<sup>2</sup>を超えないこと。

☆通常量より減量する際の理由☆

CHOP[day1]+Obinutuzumab療法【同日】

(レジメン)

【1コース目】

Day 1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル125 mg 10 内服

- ① 生食 500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② イブプロフェン100 mg \_\_\_\_\_錠 + デザレックス5 mg \_\_\_\_\_錠 内服
- ③ プレドニン 100 mg + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)または内服

☆30分後より

- ④ ガザイバ 1000 mg + 生食 210 mL(全量 250 mL)  
◎輸液ポンプにて 12 mL/時間 で点滴静注
- ⑤ 12 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 25 mL/時間 で点滴静注
- ⑥ 25 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 37 mL/時間 で点滴静注
- ⑦ 37 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 50 mL/時間 で点滴静注
- ⑧ 50 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 62 mL/時間 で点滴静注
- ⑨ 62 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 75 mL/時間 で点滴静注
- ⑩ 75 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 87 mL/時間 で点滴静注
- ⑪ 87 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 100 mL/時間 で点滴静注
- ⑫ パロノセトロン 0.75 mg + 生食 20 mL 側管静注
- ⑬ ドキソルビシン + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)
- ⑭ オンコビン + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)
- ⑮ エンドキサン + 生食100 mL 点滴静注60分

◎血管確保していた生食をエンドキサンと同時滴下90分で点滴静注

Day 2 - 3 アプレピタントカプセル80 mg 1C 1×朝 内服

Day 2 - 5 プレドニゾン 内服

Day 8, 15

- ① 生食 500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② イブプロフェン100 mg\_\_\_\_\_錠 + デザレックス5 mg\_\_\_\_\_錠 内服
- ③ デキサメタゾン 6.6 mg + 生食 20 mL 側管静注

☆30分後より

※前回投与において発現した有害事象がGrade2以下であった場合

- ④ ガザイバ 1000 mg + 生食 210 mL(全量 250 mL)  
◎輸液ポンプにて 25 mL/時間 で点滴静注
- ⑤ 25 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 50 mL/時間 で点滴静注
- ⑥ 50 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 75 mL/時間 で点滴静注
- ⑦ 75 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ  
◎輸液ポンプにて 100 mL/時間 で点滴静注

【2-6コース目】

Day 1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル125 mg 1C 内服

- ① 生食 500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② イブプロフェン100 mg\_\_\_\_\_錠 + デザレックス5 mg\_\_\_\_\_錠 内服
- ③ プレドニン 100 mg + 生食 50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)もしくは内服

☆30分後より

※前回投与において発現した有害事象がGrade2以下であった場合

- ④ ガザイバ 1000 mg + 生食 210 mL(全量 250 mL)  
◎輸液ポンプにて 25 mL/時間 で点滴静注

CHOP[day1]+Obinutuzumab療法【同日】

⑤ 25 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて 最大 225 mL/時間 まで投与速度を上げることができる

⑥ パロノセトロン 0.75 mg + 生食 20 mL

側管静注

⑦ ドキソルビシン + 生食 50 mL

点滴静注5分(600 mL/時間)

⑧ オンコビン + 生食 50 mL

点滴静注5分(600 mL/時間)

⑨ エンドキサン + 生食 100 mL

点滴静注60分

◎血管確保していた生食をエンドキサンと同時滴下90分で点滴静注

Day 2 - 3 アプレピタントカプセル80 mg 1C 1×朝 内服

Day 2 - 5 プレドニゾロン 内服

【7-8コース目】

Day 1

① 生食 500 mLにて血管確保

維持(20 mL/時間)

② イブプロフェン100 mg \_\_\_\_\_錠 + デザレックス5 mg \_\_\_\_\_錠 内服

③ デキサメタゾン 6.6 mg + 生食 20 mL

側管静注

☆30分後より

※前回投与において発現した有害事象がGrade2以下であった場合

④ ガザイバ 1000 mg + 生食 210 mL(全量 250 mL)

◎輸液ポンプにて 25 mL/時間 で点滴静注

⑤ 25 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎輸液ポンプにて 最大 225 mL/時間 まで投与速度を上げることができる

CHOP[day1]+Obinutuzumab療法【同日】

	1コース			2コース	3コース	4コース
	day1	day8	day15	day1	day1	day1
日付	/	/	/	/	/	/
ガザイバ 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
プレドニン 開始時刻	↓			↓	↓	↓
ドキシソルピシン 開始時刻	↓			↓	↓	↓
オンコビン 開始時刻	↓			↓	↓	↓
エンドキサン 開始時刻	↓			↓	↓	↓
確認						

	5コース	6コース	7コース	8コース
	day1	day1	day1	day1
日付	/	/	/	/
ガザイバ 開始時刻	↓	↓	↓	↓
プレドニン 開始時刻	↓	↓		
ドキシソルピシン 開始時刻	↓	↓		
オンコビン 開始時刻	↓	↓		
エンドキサン 開始時刻	↓	↓		
確認				